

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171300599		
法人名	株式会社 アイ・ディー・ジャパン		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	岐阜県加茂郡東白川村越原16番地の1の1 (電話) 0574-78-2535		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年4月8日	評価確定日	平成20年5月14日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 29 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	5.65 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		500 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 29 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.5 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東白川村国民健康保険病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かで人情味豊かな地域の中で、村唯一の高齢者施設として存在するグループホームである。野菜の差し入れは勿論、ホームの障子貼りや庭木の選定等にボランティアとして来てくれる人もおり、自然でほのぼのとした付き合いが保たれている。運営推進会議を通じ、外出支援のためにバスが利用できるようになったり、協力医療機関の看護師による学習会を実施する等、病院や、行政も力を貸してくれている。地域の支えを受けながら、安心できるホームとして育っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画書類の見直しは実施されており、フェイスシートは新しい物へと更新され、共に改善されている。快適な生活空間作りにおける生活臭に関しては、浄化槽の改善により、解決した。職員の外部研修への取り組みが継続改善課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に関する取り組み状況
	職員は評価の意義を理解しており、評価結果をミーティングで点検し、担当者を中心に改善計画を立て実践しているが、今回の自己評価に関しては、職員は目を通してはいるが、管理者と副主任で作り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月に1回、ホームの共有の間で開催され、行事について説明したり、地域の情報を得ていく中で外出支援用車の使用が認められたり、協力病院の看護師による学習会が実施されるようになった。参加者は管理者、民生委員、家族、村の代表として包括支援センター職員、利用者等である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは、面会時に改善して欲しいこと等も気楽に話し合える関係が構築されており、率直に出された意見等はミーティングの中で口答により全職員に伝えられ、サービスの質の向上や運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民に認知症への理解がなかなか得られず、老人クラブや地元の集会に職員が参加し、現場から、認知症についての情報伝達をしていくと共に、保育園児や小・中学生との交流を通じ、地域との連携を深めていく必要性を管理者や職員は痛感している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	共に食事をしたり、日々の話題を提供し、ホッとする雰囲気作りに努め、地域の中で支え合いながら、安心して、楽しく、自分らしく生活していけるサービスを目指す事業所の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は地域密着型サービスとしての理念を掲示物やミーティングの中で確認し、共有しながらサービスの質の向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地元からの職員や利用者の家族が回覧物をコピーしてくれたり、ケーブルテレビより地域の情報を得、地区の防災訓練やイベント等へ積極的に参加している。	○	地域に於いては、まだ、認知症への理解が少なく、ホームを怖いところと思っている人もいる。保育園児、小・中学生との交流が今後の課題となっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、改善点はミーティングで話し合い、担当を決め改善をし、サービスの質の向上に活かしている。	○	今年度の評価は管理者と副主任が作り上げ、他の職員はカウンターに置いてある評価用紙に目を通すに止まっている。全職員の意見を取り上げる方法を考慮されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、家族、村の代表として包括支援センター、民生委員、利用者等の参加により、3ヶ月に1回、共有の間で開催されている。ホーム側の現状や行事等について報告し、外出支援用に車が利用可能になったり、協力病院の看護師による学習会を実施している。	○	夜間を想定した避難訓練を計画中であり、実施結果を会議で報告し、地域の協力を仰いで行く上でも、自治会長や近隣者の参加について検討されたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特別養護老人ホームへの申し込みについてアドバイスを受けたり、地域で行われる心の相談日等の情報を行政から届けてくれる等、村で唯一の高齢者施設として、包括支援センターをはじめ行政からの支援を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の様子や行事等、写真を使ったほのぼのの新聞を3ヶ月に1回発行している。家族への連絡帳に一人ひとりの金銭面、身体の変化等や職員の異動等を記入して、面会時、家族に確認してもらう等、家族が欲しい情報を伝えられるよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、面会時、希望や改善してほしい事等気楽に話し合える関係が構築されており、それらはミーティングで全職員に伝え、日々のケアや運営に反映させている。	○	家族から出された意見や要望の内容やその対応や改善への過程を記録に残されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別養護老人ホームで介護経験を積み、グループホームのスタートから関わっていた職員をはじめ、ほとんどが地元からの採用である。賞与、昇給等も改善されつつあり、離職者が少なく、利用者への影響はない。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	村内の研修は勤務中に受講出来るが、その他の外部研修は情報提供のみで、自主参加、自己負担となっており、研修報告はミーティング時に口答で行われている。	○	外部研修を年1回ほど、業務として位置づけ、受講する体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	離職した元職員の働いているグループホームや研修で知り合った人等から情報を得ている。	○	管理者は、サービスの質の更なる向上のために、同業者との交流の機会を作っていきたいと望んでいる。その実現が期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族が、利用者や職員と1日ゆっくり過ごしていくケースが多いが、空き部屋を利用した体験入居の事例もある。落ち着くまでは、週1回の外出や面会等、家族の支援を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家に帰りたくて悲しい、涙が出る、そのおもいを抱きしめて受け入れると共に、時には職員の悲しみもそっと話して支えてもらうこともある。調査訪問時には、利用者から散らし寿司を作る提案があり、下準備、調理、配膳まで、生き活きと活動していた。		

外部 評価 値	自 己 評 価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回実施されるミーティングには全職員が参加し、気づきや利用者の思い、意向を確認しあっている。報告を受けたり申し送りを読むだけではいけないとの熱い思いが職員にはある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、担当職員、他の職員の意見をもとに、具体的で実現可能な介護計画がつけられている。時には利用者のニーズに応えるため、試してからケアプランに入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しの他、急変時には家族、医療関係者、行政にも相談して見直す等、現状に即した見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの病院への受診同行の他、誕生会等ホームの行事に家族の送迎をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を保っている利用者が多いが、希望によりホームの協力医へ変更している利用者もいる。受診は基本的に家族が対応しているが、近くの病院へは職員が対応する事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、緊急時の対応等家族や関係者と話し合い、方針をひとつにしており、数件の看取り経験もある。	○	管理者は緩和ケアの研修に参加し、更に深く学習をしていく必要性を痛感し、その機会を設けたいとの考えがある。看取り等に係わる家族との同意書をホーム内に整備されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との会話は穏やかで、一人ひとりが尊厳され、安心して生活していることがよく伝わってくる。排泄チェック記録の取り扱い等、記録物の取り扱いには特に気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑仕事や掃除など、働きたい意欲を大切にし、自分の思うようにしてもらおう等、その人がしたいこと、楽しい事、悲しい事も含め、その人らしい暮らしが実現出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気を作るには、皆が同じ物を共に食べながら楽しむことが1番であると、職員は理解しており、その思いが利用者の心にも通じているかのように、準備、調理、食事、片付け、食後のひと時にまで自然で温かな支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望者が多くなり、以前の週2～3回から、週3～4回に入浴回数が増え改善された。夏はさらに入浴回数を増やしたり、シャワー浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年1回の誕生日等、家族と一緒に遠出の外出を楽しんでいる。花見では、利用者全員とその家族も共にバーベキューを楽しんだ。カラオケ、大工仕事、畑仕事等、それぞれが楽しく生活出来る様な支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等、日常的な外出は希望に応じて支援している。	○	認知症予防面からも毎日外気に触れることは大切であり、希望はなくても天候に合わせて近所の散策をする等への取り組みが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム周辺に崖や橋があり、転落の危険や死にたいと飛び降りかかった例があり、日中でも職員が1人になる時間帯は施錠している。理念に沿ったケア、拘束しないケアを目指す上で、施錠に対する取り組みの方向性を模索している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加し、ホームでは日中に避難訓練を実施している。連絡網や地域への協力体制も整えられている。	○	夜間、職員1人での避難対応を想定した訓練を計画しているため、その取り組みに期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食費の自己負担をできるだけおさえ、家族、地域の人、職員などから差し入れされた野菜や果物を食材に利用し工夫している。牛乳を間食に入れることでカルシウムを補い、水分を十分取ることも心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた純和風造りの家、地域のボランティアによる手入れの行き届いた植木が見事な広々とした庭、その庭が眺められる和室コーナーがあり、コタツやソファ、目線に優しい場所にテレビが設置してある。2ヶ所にあるトイレは、ゆったりしていて介護がしやすい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、それぞれに家具や小物、写真、位牌などが持ち込まれ、使いやすく、その人に合った居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。